

日本映画放送株式会社 第74番組審議会議事録

1. 開催年月日：令和2年8月18日（火）付
2. 開催方式：新型コロナウイルス感染拡大中につき、レポート提出という書面開催にて実施し、ご意見・質問を受け付けました。

3. 委員(順不同・敬称略)：菊地 実・鈴木 嘉一・尾形 敏朗・神田 由築・砂川 浩慶・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正・宮崎 美紀子・山川 鉄郎

放送事業者：代表取締役社長	杉田 成道
常務取締役	佐藤 信彦
執行役員編成制作局長	宮川 朋之
編成制作部長	小川 英洋
編成制作部	三宅 歩
編成制作部	三瓶 祐毅
編成制作部	小林 良弘
番審担当	堤 靖芳
	清水 明(記)

4. 議題

- (1) 審議事項：日本映画専門チャンネル オリジナル番組  
「倉本聰×杉田成道 北の国から を創った男たち 初めての対談」
- (2) 報告事項：時代劇専門チャンネル 特集  
「～時代劇を継ぐ者～ 早乙女太一」

5. 議題 (1)

東京から北海道に移住した黒板五郎(田中邦衛)一家を中心に、人間の弱さと強さ、滑稽さ、そして美しさを、大自然を舞台に描いた不朽の名作ドラマ「北の国から」。放送開始から40周年を迎え、デジタルリマスター版を制作。レギュラー企画「倉本聰劇場」にて今年1月より最高画質で完全放送しています。7月はこの国民的ドラマを創りあげた脚本家・倉本聰と、演出を務めた杉田成道が、人生や創作について語った特別対談番組を放送しました。

【審議ポイント】

- 本番組は<倉本聰劇場>及び「北の国から」をご覧いただいている視聴者の興味を惹く内容になっておりましたでしょうか。
- 映画専門チャンネルならではの対談番組を製作・放送してまいりましたが、今後製作すべき対談番組や特別番組の方針について、ご意見がありましたらお聞かせください。

## 6. 議題（1）審議内容 ※文中敬称略

- ・「10年の単位で追えるような家族のドキュメント」というコンセプトのすごさ。21年の時間を過ごしながら、「北の国から」はお茶の間の目を黒板家と富良野に引き付けた。またこんなドラマが作れる日が来るのかな、と考えさせられた。
- ・一見ドラマと関係ないことから話し始めるが、次第にドラマのテーマに収斂されていく倉本の話術は、さすが。テレビに愛想が尽きて富良野塾を作ったのかと思っていたが、テレビに恩返しするためだったというのが最も印象に残った。
- ・倉本聰の創造力と表現力の見事さ。杉田成道の分析力と対話力の巧みさ。たった二人の黒幕だけの番組でも、出演者の才能次第では、こんなに面白いものができるとは、今更ながらの発見であった。
- ・杉田から倉本にインタビューをしている印象が強かったので、杉田の話ももっと聞きたかった。監督の本音を聞ける機会は意外と少ないので、映画とセットで見せることによって、他の映画チャンネルとの差別化が図れると思う。
- ・「都会に住むものの驕慢さを持たない」というこだわりが優れた作品を生み、今日のコロナ禍でも生きている。こういうイベント座談会も貴重な資料として高く評価できる。
- ・トークの合間にドラマの写真を入っていたが、話がしばらく途切れたり、タイミングの悪い箇所があった。観せる工夫が求められる。
- ・倉本と演出の杉田成道は、萩原健一主演の秀作「君は海を見たか」や陣内孝則を人気者にした「ライスカレー」などの連続ドラマでもコンビを組んでいるので、こうした作品についても多少言及してほしかった。
- ・当事者でなければ判らない話が盛り沢山で、視聴者を満足させるものであった。日本映画専門チャンネルでは、これまでも「作り手」サイドで希有な組み合わせの対談を実践してきており、継続していくべきだと思う。
- ・「北の国から」の撮影秘話などという表層的なものではなく、戦争や戦後社会という原体験のうえに、いかに倉本の脚本が組み上がっているかを思わせる、濃密な内容であった。
- ・対談番組、特別番組については<日本映画専門>の看板を掲げる立場から言って、特に日本映画史の記録を残すことは重要な使命ではないか。

これに対して弊社からの回答は以下の通りであった。

- ・倉本聰には多くの名作があり、機会があれば他の作品に関する番組も検討したい。対談番組の作り方については様々な試行錯誤を繰り返しているが、いただいたご意見を参考に、話の繋がりやタイミングなど、番組の見せ方をもっと工夫していきたい。
- ・今回の番組は倉本聰の生き方や思想が見えてくる内容になっていて、ドラマを放送するだけでなく、チャンネルならではの見せ方として、ファンにも納得いただけたと思う。
- ・作り手同士が信頼して語り合う対談は、専門チャンネルならではの番組になり、視聴者からも好評をいただいている。仰られる通り、日本映画史・ドラマ史上の著名作家や名優の姿や証言を残すことは、非常に重要な課題だと今考えている。コロナ禍において番組制作は

難しい状況だが、制作の進め方を考えなくてはならない。

- ・様々な視点でドラマや対談を語っていただき、新しい発見があった。今後も監督として作品づくりを続けていくので、いただいたご高見を胸に頑張っていきたい。

## 7. 議題（2）報告事項

### 【時代劇専門チャンネル 特集「～時代劇を継ぐ者～ 早乙女太一」】

早乙女太一、28歳。目にも留まらぬ速さの華麗な太刀筋に、時には女形もこなすほどの色気ある目線の置き方、そして粋な着物の佇まい― 大衆演劇という場に身をおきながら、時代劇の在るべき姿を体現するその若き才能を、今回は「準劇団員」と言われるほどの出演回数を誇る“劇団☆新感線”の舞台作品2作と、劇団☆新感線座付き作家・中島かずきが脚本を手掛けた盗賊バディドラマ、2シリーズの充実ラインナップで、8月に放送をしました。

## 8. 連絡事項

次回番組審議委員会は、2020年11月17日16時より開催予定。